

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームかわかみ

作成日 令和 1年 7月 8日

達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	虐待の防止の徹底	身体的な虐待等は日頃より職員間での防止徹底を図り、身体的拘束適正化に関する研修を通して、職員の意識向上につながってきている。身体チェックの際に必ず色々な職員が目を確認するようにしている。ただ、危険予備における入居者の行動抑制の一環にもなりうるスピーチロックの徹底防止を行う。	不穏の原因が人的要因（スピーチロック）も考えられる事を認め、言葉かけ、言い方、タイミングを細かく事例検討を行っていく。	長期
2	8	運営に関する利用者、家族等意見の反映	運営についてサービス内容、取り組んでいる状況、抱えている課題などにおいて、家族をはじめ地域住民代表（町内会長）や有識者の意見を聞く機会としても重要な機会であるが、家族の参加が固定化され、人数も少ないのが現状である。少しでも色々な家族の方の参加を促し理解を深めていただく。	仕事を抱えていたり時間的余裕のないご家族が多いようである。サービス内容を知っていただく機会であり、各々の考え・意見を交換し、サービスの改善につながる場の会談である事を繰り返し発信していく。	長期
3	13	職員を育てる	人員不足、配置換えの困難さから対外的な研修に合わせでの参加が難しいところである。また、研修内容も職員が興味を持つ内容と異なることも多いようであるため、施設内研修で皆の納得のいく課題を何處も取り上げ、事例検討を踏まえて知識の底上げに努める。	参加できる際には積極的に参加しながら、研修資料を入手したり、交換をさせていただいている他施設の情報も入手しながら実践を盛り込んだ研修を多く、虐待（特にスピーチロック）における学びに重点を置き皆がゆったり進める雰囲気、環境の整備をしていく。	随時
4	34	急変や事故発生時の備え	急変につながる切っ掛け、初期症状を見逃していないかを確認しながらヒヤリハットを繰り返して事例検討をする。事故発生時に備えた処置、対応の仕方を積み上げる。	入居者の身体状況の把握として、常々アセスメントを繰り返し職員の情報を吸い上げながら情報の共有を一元となつてしていく。ヒヤリハットの拾い上げの重要性を勉強会をして危機管理の整備を行う。	随時
5	13	災害対策	夜間想定した災害発生時を専案として担当し、職員が避難経路の確保、避難場所の仕方、より細かく練りながら動きに無駄がないか、誤った行動はないかの見極めを行う。	火災発生時はもちろん、災害時に地震、大雨などによる停電などが起きた場合の施設内待機の見極め、避難する場合の誘導方法、火災時の避難してはいけない方向の周知など詳細事案を出していく、その都度入居者の現状に合わせた優先順位、避難経路の段取りなどをこれまでの訓練から細かく出していく。問題発生しながら、入居者の身体状況を汲みながら家族への面会時に報告、推進会議を利用して意見交換など重ねていく。	随時